

# 進修同窓会報

発行 土浦一高進修同窓会

編集 同窓会会報編集委員会

〒300-0051 茨城県土浦市真鍋4-4-2

TEL(029)822-0137(代) FAX(029)826-3521

ホームページ <http://www.sin-syu.jp/>



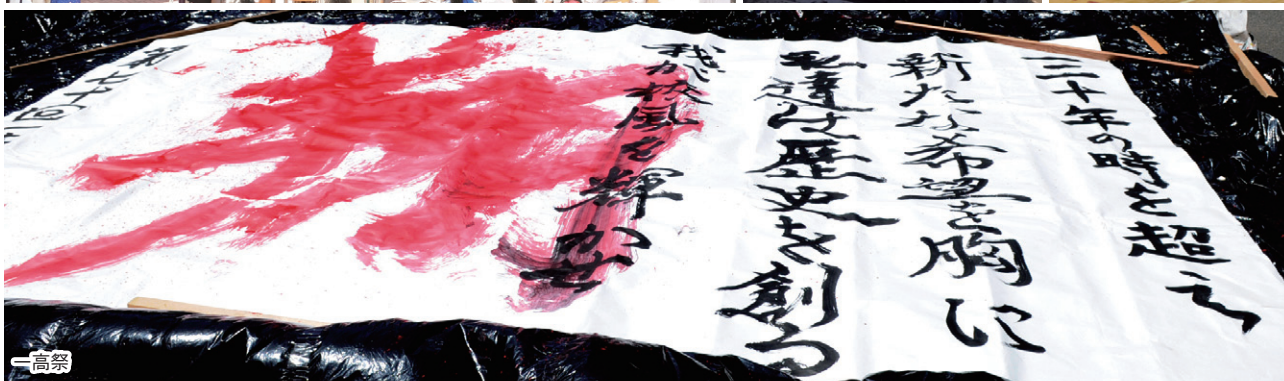
一高祭



一高祭



定時制・球技会



一高祭



一高オリンピック



SGH海外フィールドワーク・マレーシア



歩く会

## 土浦一高校歌

堀越 晋 作詞  
尾崎 楠馬 作曲

- 一、沃野一望数百里 関八州の重鎮として  
そそり立ちたり筑波山 空の碧をさながらに  
湛えて寄する漣波は 終古渝らぬ霞浦の水
- 二、春の彌生は桜川 其の源の香を載せて  
流に浮ぶ花筏 蘆の枯葉に秋立てば  
渡る雁声冴えて 湖心に澄むや月の影
- 三、此の山水の美を享けて 我に寛雅の度量あり  
此の秀麗の氣を享けて 我に至誠の精神あり  
東国男児の血を享けて 我に武勇の氣魄あり
- 四、筑波の山のいや高く 霞ヶ浦のいや広く  
嗚呼 桜水の旗立てて 我が校風を輝かせ  
亀城一千の健男児 亀城一千の健男児

## 目次

|     |              |
|-----|--------------|
| 2頁  | 会長あいさつ       |
| 3頁  | 学校長あいさつ      |
| 3頁  | 平成29年度総会報告   |
| 4頁  | 卒業60周年記念同窓会  |
| 4頁  | 卒業50周年記念同窓会  |
| 4頁  | 新任職員紹介       |
| 4頁  | 卒業40周年記念同窓会  |
| 4頁  | 卒業25周年記念同窓会  |
| 5頁  | 卒業15周年記念同窓会  |
| 5頁  | 創立120周年記念式典  |
| 6頁  | 恩師を訪ねて       |
| 7頁  | 卒業生レポート②     |
| 8頁  | 支部・OB会だより    |
| 9頁  | 母校だより 職員室だより |
| 10頁 | 部活動報告        |
| 11頁 | 進路状況報告       |
| 12頁 | 平成28年度決算報告等  |



## 同窓会会長あいさつ

幡谷 浩史

(高4回・併2回)

同窓会会員の皆様におかれましては、日頃から当会運営に對しまして、ご支援・ご協力を頂き誠に有難うございます。

お蔭様をもちまして当会の会務も順調に進み、この度、創立120周年記念式典を恙なく挙行出来ましたことは、誠に喜びに堪えません。

これも偏に、会員の皆様の母校に對する熱い想いと会員相互の心の絆の強さとの賜と、感慨深く感じております。

さて、創立120周年記念事業の最大のもは、旧本館(国指定重要文化財)の大改修であります。平成30年6月の完工を期して改修工事が進められております。本来であれば、記念式典にはお披露目が出来れば、と考えておりましたが、入札・資材調達等の関係もありまして、現況に至った次第でございます。竣工時には、改めてお披露目の機会を持ちたいと考えています。

なお、旧本館の周辺に植樹された木々が、100年を経過しまして巨木となり、旧本館を傷め、維持管理する上で総合的な造園計画も必要となり、併せて整備を手がけることとしていたしております。

これらに係る経費につきましては、皆様方の絶大なるご協力によりまし

て、募金目標額8千万円を超えることが出来ました。心からお礼を申し上げる次第でございます。

今回の大改修が、今後、本校で学ぶ生徒諸君に受け継がれて、母校のシンボルとして輝き続けるものと確信しております。

生徒諸君には、全国屈指の進学校としての自負心と次の時代を担う教養・能力等を身に付け、国内はもとより世界に飛び立ち、活躍することが期待されます。

しかし、21世紀は、未だ先行き不透明であり、国内外に課題が山積しています。しかも変化のスピードも速く、問題解決のための意志決定も速やかに出来る能力等が求められ、それらに適切に対応していくことが必要となります。

このような時代にあつて、生徒諸君がそれぞれの進路希望を実現し、どんな道に進むと、本校は心の古里であり、青春時代を過ごした学び舎を忘れることはない、と思います。

この度の創立120周年を契機として、生徒諸君はもとより、同窓会会員の皆様にとりまして、本校の歴史と伝統とを物語る旧本館を心の拠り所として、全国各地、世界へと同窓の輪が広がることを祈念して、ご挨拶いたします。



## 学校長あいさつ

学校長 杉田 幸雄

(高29回)

進修同窓会の皆様には、日頃より両面にわたってご協力を賜り、深く感謝申し上げます。また、創立120周年記念式典や記念事業へのご支援に心から御礼申し上げます。

本校では、120年の歴史と伝統を受け継ぎ、継続的・計画的な最高水準の教育活動を展開することにより、生徒たちの個性や能力を引き出し、次の日本、世界をリードする高い知性と心豊かな人間性を備えた人材の育成を目指しています。「自主」「協同」「責任」の校訓のもと、「Noble Oblige」ノブレス・オブリージュ(高き位に重き務めあり)を教育理念とし、次代のリーダーにふさわしい人間力の育成のため、様々な教育活動を行っているところです。

本年度のSGH(Super Global High School)の海外フィールドワークは、昨年度までの2コース(マレーシア・シンガポール方面、オーストラリア・タスマニア方面)に加えて、北アメリカ(西海岸)方面を実施しました。連携協定先の筑波大学や本校同窓生の協力を得て、生徒たちの学びの水準を高めるとともに、次代を切り拓く課題研究に取り組み、活躍できるグローバル人材育成のために、質の高いカリキュラムを実践してまいります。

また、3月には、進修同窓会の援助を受けて、SEG(Science Explorers Group)として、米国での海外研修を行います。1・2年生の希望者を対象とするのですが、生徒たちには、サチューレッツ工科大学やハーバード大

大学等を訪問して、研究者との懇談等を通して最先端の本物の科学に触れ、世界で活躍することの素晴らしさを体感してほしいと願っています。

本校においては「高い知性」を身に付けた生徒たちは、毎年、東京大学や国立医学部医学科をはじめとする多くの難関大学への進学を果たしています。本校で身に付けた高い知性と自立探究型の学びの精神は、大学進学にとどまらず、その先、自分が社会にどのような形でかかわっていくのかを見据えた、生涯にわたって役立つ重要なスキルとなるものと考えています。

次に、本校定時制についてですが、今年は春にデイズニールランド遠足を実施し、毎年恒例のクラスマッチとあわせ、生徒たち相互の絆を深めることができました。定通大会でもソフトテニ大会へ出場するなど、生徒たちは部活動でも活躍しています。

これは本校の学校教育活動の礎となるのは、これまで多くの同窓生の皆様が発展のための創造と挑戦の営みであると感じております。本校教職員一同、この土浦一高で学ぶ生徒のため、日々努力を重ねていくところでございます。今後ともご指導ご支援をくださいますようお願い申し上げます。

最後になりますが、学校の様子をより身近に感じていただくために、YouTubeを利用して動画を学校HP上に掲載してあります。是非そちらの方もご覧いただけると幸いです。

平成29年度

## 進修同窓会総会開かれる

今年4月9日(日)に平成29年度進修同窓会定期総会が、母校体育館において、周年祝賀卒業生を含む500名という大勢の皆様のご出席を得て、盛大に開催されました。

総会は、応援指導部の元氣一杯のリードと吹奏楽部の澁刺たる演奏に合わせて、校歌・応援歌・一高讃歌を全員で斉唱することから始まりました。続く幡谷浩史会長と杉田幸雄校長の挨拶の後、平成28年度事業報告・決算報告、平成29年度事業計画案・予算案、役員改選案が原案どおり可決承認されました。更に、創立120周年記念事業、次年度以降の総会日等も原案どおり可決承認されました。

また、創立120周年記念事業の完遂に係る募金が、目標額8千万円に対し、多くの方々のご尽力ご協力により、78972千円(延べ2505人)にまで達していることが報告されました。その後、役員退任者2名に対する感謝状の贈呈、同窓会から学校に対する大型スクリーンをさつそく利用し、本会が助成する事業の一つである、今回が8回目の生徒海外研修(Science Explorers Group、参加者:生徒38名・引率教員6名、期間:平成29年3月18日~3月28日、訪問地:ワシントンDC・ボストン・ニューヨーク)に参加した生徒の代表からの成果報告がありました。総会は終了しました。

続いて、卒業60周年(全日制9回・定時制7回)、卒業50周年(全日制19回・定時制17回)、卒業40周年(全日制29回・定時制27回)、卒業25周年(全日制44回・定時制42回)、卒業15周年(全日制54回・定時制52回)の節目を迎えた皆様に対する卒業周年祝賀式が挙行されました。小林俊郎氏(全日制20回)よりの祝辞、幡谷会長よりの臨席者への記念品贈呈があり、最後に宇田川仁一郎氏(全日制19回)より謝辞が述べられました。



幡谷浩史会長(右上)  
杉田幸雄校長(左上)  
宇田川仁一郎氏(右下)



応援指導部のリードのもとでの校歌斉唱

この後、ホテルマロウド筑波・料亭霞月楼などに会場を移し、各周年・参加者の懇親会が、それぞれの幹事のお骨折りで催されました(「卒業15周年」は前日にホテルグランド東雲で開催。そこでは、恩師や旧友との再会を喜び合うとともに、脳裏に甦ってくる懐かしい思い出話や近況報告などに花が咲き、大いに盛り上がりました。(本部幹事 鴻巣 茂)

## 卒業60周年記念同窓会

〜開学以来の不出来卒業生だが、高9回 服部 或雄

4月9日の「母校会場式典」には100名が、「学年祝賀会」(マロウド)には90名が集いました。「個人写真」アルバムも絶好評。最後の舞台は各位が大満足裡に終わりました。

私たちは昭和32年の卒業生。卒業後もなくクラスの枠を超えた「ぼちぼち会」を毎年開催。以後学年同窓会「は50回を超え、これが60周年の成功に繋がりました。当日は常連の不参加、また「式典」1週間前に数名の不参加がありました。傘寿を前に「健康長寿」を願い、「寄る年波」と格闘する今日この頃です。

さてこの機に、往時を懐かしくしみじみと回顧してみました。

「卒業のころ、ある先生から『9回生は学校始まって以来の不出来』と言われました。それは勉学の面を指摘してのことか、また数多くの武勇伝、場合によっては先生にこつ酷く叱られたこと等のご記憶か、それらも愛のムチとして感謝の思い出になっています」

「国民学校へ入学、その年の8月15日に敗戦。極度の食糧難に見

舞われました。芋の葉や蔓の煮物が食卓に上るようになり、そして『たけのこ生活』の始まりに。幼いながら戦争の悲惨さ・辛苦を知り、戦争はもうこりこりと思いつながら、一方では朝鮮戦争景気の矛盾に満ちた時代でもありました」

高校時代の思い出の一つに「我らの硬式野球部は甲子園へもう一歩の悔しさに涙し、その無念を後輩に託しました。その甲斐あって次年度に創部初の甲子園出場の快挙を成し遂げるに至りました。さらに演劇部、音楽部、弁論部等も野球部に負けじと励み、それぞれ有終の美を飾ることが出来ました」

「卒業後は多方面のリーダーとして、また地域興し・経済復興の竜骨となつて奮闘、さらにバブル崩壊後を支えた世代でもあります。それらの功績により叙勲者も11名に及びます」

さらには「進修同窓会本部副会長(校外から)の任にあたる」者、「学年主任(平成2年卒42回生)として母校の過渡期に繋がる一翼を担った」者(注)、「開学以来の不出来卒業生」も心機一転、母校へ、社会へ堂々の足跡を残しています。「すべて厳しい拳骨が支えと、感謝の至りです」

今後は「88会」として、11月第1日曜を例会日。「健康長寿」「QOL」がその合言葉です。

(注)横田校長は「日本一になれ」と全校集会で檄。綿密な実践が奏功。全国模試、英語、東大現役合格が公立のトップに。

## 卒業50周年記念同窓会

高19回 原田 博夫

進修同窓会定期総会・記念祝賀式は、平成29年4月9日(日)午後、

## 新任職員紹介

副校長 明賀 靖子



今年度の定期異動で、土浦第一高等学校に赴任致しました。初出勤以降、感動の毎日を送るとともに、進修同窓会の皆様の熱心な思いを日々実感しております。伝統ある本校のために、微力ながら尽力して参りますので、よろしく願います。

雨模様の中、体育館で予定通り開催されました。高校19回(昭和42年)卒の本年周年同窓会への参加者は108名でした。

総会・記念祝賀式では、現役生たちの活躍の様子を目の当たりにすると同時に、高校19回卒業生代表・宇田川仁一郎君の謝辞では、在学中の各種イベントが、学外・社会的な話題や学内行事に関連して、次々に列挙されて、往時が走馬灯のように浮かび、月日の経つのがいかに早いかにしみじみと思ひ至りました。

高校在学中は、当時の地方圏の多くの進学校と同様に、受験勉強に追い立てられた感もあります。来日ビートルズの日本武道館公演(昭和41年6月)には、時代の変革の息吹を感じ、高揚感をもって自らの青春を重ね合わせていた同窓生も少なくないと思います。しかし、大学進学や社会に出ると、時代は70年安保闘争が間近に迫っていて、また、ベトナム反戦運動や成田空港問題あるいは沖縄返還運動などの「政治」の季節で、実のところ、当時は社会的な

熱病に浮かされていたような気がします。

閑話休題。本年前半(平成29年4月～9月)のNHK朝ドラでは、茨城県(架空の)奥茨城村を舞台にした「ひよっこ」が放映されていて、桑田佳祐のボン・ボン・ボンのイントロで始まるテーマソング「若い広場」が視聴を誘っていました。どうやらこのドラマの主人公たちは、ドラマの設定上は、われわれより学年は上だったようですが、そこに登場するいろいろな設定・話題・イベントや小道具類には、見覚えのあるものや懐かしい事例が目白押しで、われわれの青春時代を彷彿とさせる、こうした企画を、魅力度ランキング最下位の茨城県を舞台に立ててくれたNHKには、個人的に感謝した一人です。以上、だいたい脱線しました。

本題に戻ります。総会終了後の同期同窓会は、会場を市内中心部の「割烹 霞月楼」に移し、懇親を深めました。その場には、わが学年を担当された先生方(青山和義、片岡博、中島節、大曾根宏亮、丸島秀明の5名の先生)も元気でおいえになり、文字通り、恩師・旧友との旧交を温めることができました。この会場は、同期・堀越恒夫君が経営する、明治22年創業のお店でもあり、その配慮もあってか、32万余円の残金が出、それを全額、本部同窓会に寄附することができました。創立120周年記念事業の一助になれば幸いです。

## 卒業40周年記念同窓会

平成29年4月9日、進修同窓会より卒業40周年記念のご招待を受

高29回 島岡 宏明



けて、私達高29回卒業生102名と恩師の先生方6名とが母校に参集致しました。定期総会は、体育館で在校生の吹奏楽部・弦楽部・応援指導部の校歌斉唱・エールを受けての開会となりました。続いて、卒業周年記念祝賀式が行われ、進修同窓会の諸先輩方からのご祝辞及び記念品を頂戴致しました。同級生と共に母校に伺い、土浦一高時代の思い出に浸るひとときを過ごすことができました。歴史と伝統のある進修同窓会のご厚情に、高29回卒業生を代表し厚く御礼申し上げます。

記念祝賀式の後、学年同窓会をホテルマロウド筑波で開催致しました。恩師の先生方のご出席を賜り、同級生一同、青春時代に戻り、大いに盛り上がりました。

私たちは、普通科8クラス、理科1クラス、総勢361名で、昭和49年4月に入学しました。ご指導いただきましたのは、遠藤俊夫校長をはじめ、学年主任の安達之貞、副主任の清水健三、担任の吉澤中正、齋藤勝、風間俊也、

青木文雄、伊能健、村松輝美、中島雅之、山本茂、友部發夫、飯島國雄、飯田哲也の先生方です。その他にも実に多くの先生にお世話になりました。

驚いたことに、現在の校長には同級生の杉田幸雄君が着任していました。この記念すべき40周年を迎えた私達にとって、誇らしい限りです。また、竹園高校の校長には同級生の足立仁一君が就任しています。そして市内外の小中学校にも校長・教諭として奮闘している者が、その他の教育機関にも優秀な人物が、多数おられます。他にも、一般企業・自営業・病院など多岐に亘り、活躍している者が沢山あります。高校を卒業して40年。人生の岐路に立たされても、ここで培われた知識や経験によって、少しでも世の中に役立つ人生を送ることができれば、と考えるようになりました。これも偏に先生方のご指導のお蔭です。

このように、優秀な同窓生をたくさん輩出しており、今では全国でも有数の進学校になった母校を改めて誇りに思うとともに、歴史と伝統のある土浦一高で、青春時代を過ごせたことは、私の人生における大きな宝物だと思っております。

最後になりましたが、創立120周年を迎えた土浦一高及び進修同窓会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝とご活躍とを心からご祈念申し上げます。

## 卒業25周年記念同窓会

平成29年4月9日(日)、進修同窓会総会・卒業25周年記念祝賀式に出席いたしました。式典では吹奏楽部演奏のもと校歌斉唱して

高44回 池田 浩司

は、「1番くらいは覚えてるもんだな」と思い、応援団のエールを聞いたら、「野球部の応援で市営グラウンドへ行ったな」と思い出しました。あわせて、この様な機会を設けて頂いた皆様に、高44回卒業生を代表して厚く御礼申し上げます。

式典の後、「ロープカスミがうら」で学年同窓会を開催しました。恩師の先生方と共にクラス毎の記念写真を撮影後、会が始まり、恩師を代表して大山先生にお言葉を賜り、最後は元応援団顧問の井坂先生から応援エールを賜り、閉会しました。途中、第44回代表幹事の小倉君一押しイベント、「あの時好きだった人コンテスト」なるものが行われ、男性部門1位は獲得票2票、女性部門1位は獲得票3票、という結果に終わり、ちよつと肌寒い空気が漂ったのはご愛嬌。全体的には恩師の先生方を含め約150名もの方々に参加して頂き、帰りの際ほとんどの料理が残っていたところを見ると、食事する暇が無い程、会話に夢中になり、それなりに盛り上がりつつたのではないのでしょうか。私自身もその1人です。その一方できちんとご挨拶できなかった恩師の先生方に、この場をお借りしてお詫び申し上げます。その後も2次会に約80名、3次会に約35名が集まり、夜中まで宴は続きました。

25年という年月を振り返れば、大学に進み、仕事に就き、結婚をし、子供が生まれ、言葉にすると普通の事ですが、いろいろな事がありました。そんな中、今回の様な機会を頂き旧友達と再会し、過去・現在・未来について語り、15年後の40周年が今から楽しみです。2次会途中、酔ったY君が「毎

年、同窓会をやる」と言い出し、代表幹事の小倉君が「5年毎にやる」と宣言してしまつたので、同窓会に關しては乞うご期待。最後に、土浦一高と進修同窓会の益々のご発展と今回ご列席下さった方々はもちろん、残念ながら都合がつかなかった方々のご健勝をご祈念申し上げます。

なお、今回の同窓会を機に「48一高ゴルフ会」を発足致しました。ご興味のある方は、ご一報下さい。(会長はF組鈴木君です)

## 卒業15周年記念同窓会

平成29年4月9日(日)、進修同窓会総会及び祝賀式に参加しました。10数年振りに母校の門をくぐると、一気に高校時代に戻つたような懐かしい感覚、数々の思い出が蘇ります。昔と変わらぬままでの旧本館、新しく姿を変えた体育館。そして3年間白球を追いかけたグラウンド。自転車を全力で漕ぎ、坂の上の門を目指して通学していた日々から15年の歳月が流れたかと思うと、感慨深いものがありました。

我々第54回生は、同窓会総会の前日、学年同窓会をつくば市にあるホテルグランド東雲において開催しました。同級生93名が参加し、学年主任の門井先生をはじめとする多くの先生にご臨席いただき、総勢100名を超える賑わいとなりました。それぞれの先生方からご挨拶をいただきましたが、15年振りに先生方のお話を伺うと高校時代の授業中にタイムスリップ。短時間ながらも、先生方の授業(ご挨拶)が始まりますと、懐かしい思い出が蘇り、会場は笑いの渦に包まれました。(次ページ最下段に続く)

# 創立120周年記念式典

同窓会副会長・式典委員長

武井 秀一 (高23回)

本校体育館において平成29年11月18日(土)午前9時30分から、多数のご来賓のご臨席の下、多くの同窓生・保護者及び全校生徒が相集い、記念式典が厳粛かつ盛大に挙行されました。続いて、11時10分からは東京大学総長・五神真(このかまこと)先生による記念講演会がアカデミックな雰囲気の中で開催されました。午後1時10分からは、本校アリーナ(進修記念館)に場所を移して、同窓生を中心に記念祝賀会が楽しく賑やかに終わりました。今回のような記念式典などは、平成9年の創立100周年以来となる20年ぶりの実施で、これまでの本校の歩みを確認するとともに、今後の発展を期するものとなりました。

## 記念式典

来賓100名、同窓生300名、保護者200名、全日制・定時制生徒1000名、教職員90名などの計1700名に迫る多くのの方の参加により挙行されました。体育館2階の主会場に入りきれない方々には、事前にモニターを設置したサテライト会場を1階卓球場に設けて対応しました。国歌斉唱に続き、物故者に対する黙祷を出席者全員で捧げ、亡くなられた先輩諸賢に哀悼の意を表しました。続いて、杉田幸雄校長(高29回)の式辞、同窓会長でもある幡谷浩史120周年記念事業実行委員長(高4回)の挨拶があり、杉田校長は式辞の中で、本校の沿革や現



況について触れられ、また、幡谷実行委員長からは120周年記念事業の意義と経緯についての説明がありました。次に、多忙な日程を調整してご臨席頂いた大井川和彦県知事からご祝辞を賜り、その後、柴原宏一県教育長のご挨拶、保護者を代表しての金本幸司全日制PTA会長(高42回)の挨拶と続きました。更に、中川清土浦市長(高16回)、青山人衆議院議員(高49回)からご祝辞を頂きました。いずれも、120年の歴史と伝統に相応しい、本校に対しての強い期待と熱い思いの内容で、本県を代表する県立高校としての本校の大きな存在を改めて感じました。続く来賓紹介・祝電披露の後、今回の記念事業関連として、進修

同窓会及び同窓生から茨城県及び母校に寄贈された、旧本館改修経費の一部・新しい校旗や校章旗、文化部室改築費・講演などに使用する大型プロジェクト・生徒の海外研修のための基金などに係る披露がありました。そして、本校生徒を代表して全日制前生徒会長の3年下川諒也君の、土浦一高の伝統に恥じない進取の気性をもった生き方をする、という力強い挨拶があり、最後に全員で校歌を高らかに斉唱して終了しました。時節柄、少し寒い中での式典ではありましたが、生徒は勿論のこと参加者全員が120年の歴史と伝統の重みと本校の揺るぎない存在感とを改めて実感するとともに、今後も威風堂々と歩み続ける土浦一高に相応しいものでありました。

記念講演会  
記念式典に引き続いて体育館で行われた記念講演会は、物理学者でもある五神先生をお招きして、「知のプロフェッショナル」になるということ」という演題で行われました。講演の内容は、ご自身の研究者としての道を歩まれたきっかけや研究テーマの紹介、学問や研究の本質、そして、大学や社会が期待している人物像などで、分かりやすい言葉で丁寧に語ってくださいました。次代の日本や世界をリードする高い知性と心豊かな人間性を備えた人材の育成に努めている本校の教育方針に相応しいものでした。最後に質問の時間が設けられて、生徒からは、「これからの社会を生き抜いていく上で必要なことは何か」「大学で学ぶ意義は何か」など、活発に質問が出て、五神先生は「学問の楽しさを知り、社会の変化とそれへの挑戦を楽しむことだ」「大学では知識の量よりもそれをどう使えるかが大切だ」などと丁寧にお答えくださいました。質問する生徒が多く、予定時間を大きく超えるなど、熱気に満ち溢れたものでした。最後に生徒会役員の2年牧野創(まきのそ)君が謝辞を述べ、講演会は終了しました。ご存じのように、本校は東京大学への進学者が毎年20名を超えるなど、全国屈指の進学校で、東京大学への進学者が公立高校全国第1位になったこともあります。東京大学進学者総数もあと数名で1000名に達する状況です。今回の講演会については、こうしたご縁に加え、渡邊慎一氏(高20回)の格別のお骨折りで実現されたものです。学問の深淵さを肌で感じ取れて非常に感銘深く、記憶に残る講演会となりました。

記念祝賀会  
小野治(おのさむ)募金委員長(高9回)の乾杯の音頭とともに、あちこちに談笑の輪ができ、笑みがこぼれ、会話が弾む場となりました。会場が学校内ということもあり、ホテルから取り寄せたデリバリー・スタイルによる立食パーティー形式・ノンアルコールで、和やかな雰囲気の中で進められました。その途中で、旧本館改修工事の様子を撮影した300枚のスライドが映写され、同窓生の誇りでもある旧本館が新しく魅れる様子は、大変好評でした。そして、限られた時間で、名残を惜しみながら終了するところとなりました。



(写真提供：沖田匡史)

最後に、現在、同級生の藤田大輔君が母校の硬式野球部の監督です。彼は、「甲子園出場」を目指しています。皆さん、来年の夏をお楽しみに！

## 恩師を訪ねて

英語科

原

尚道先生

昭和44年4月〜平成元年3月在職  
(平成29年11月9日逝去・享年83歳)

原先生は、本校に20年間在職され、生徒の英語力向上に真摯に取り組まれ、更には、重責の学年主任を2期6年連続で全うされました。

先生ご自身による回想の記です。なお、この玉稿は9月に受領したものです。

先生のご冥福をお祈り申し上げます。

## 学生時代

私は旧制中学最後の学年で、土浦中学校の3年生を終わって自動的に土浦第一高等学校1年生になりました。高校4回卒業になりました。終戦後4年しか経っていませんでした。世の中、活気がありませんでした。旧本館の木造校舎での日常は夏暑く、掃除をさぼりごみを床下に落とすとシラミが出てくるし、冬はあくまでも寒く形ばかりのだるまストーブはその周りだけが熱い不便なものでした。高い天井越しに隣の教室と雪合戦をしたこともありました。旧制の名残か、先生方をあだ名で呼ぶのが普通でした。赤鬼、巖鉄、山

長、欽ちゃん、ラムダ、センチンス、カメさん、タコさんなどの諸先生です。校章の入った学帽と学生服を着用し下駄履の登下校でした。大学は茗荷谷にある東京教育大学教育学部教育心理科に入りました。大学院に進むか教職に就くか迷いましたが、学校全体が殆ど教員志望という流れに押され教職を選びました。

## 教師として

昭和32年、宇宙飛行士ガガーリンが宇宙に飛び立った年、高校教師になりました。東北の高校に少し勤務した後、水戸二高に異動しました。持ち時間週23時間、合併授業では1クラス60名と今では信じられませんが、それが普通でした。授業では多くの鋭い質問を受けることもあり、各分野で有名な先生方がおられました。当時、馬渡(現在の国営ひたち海浜公園)に米軍射撃場があり、その20代の若い司令官が毎週来校され、夜間部生徒のために英会話教室を開いていました。昼夜掛け持ちの先輩教員に誘われ、特別参加させていただき、生の英語に接することができました。また、学校見学を命じられ、都立日比谷高校・県立浦和高校を見学できたことは大変参考になりました。学区制がないころの日比谷高校は正に天下の秀才の集まる場所でしたが、1年生の英作文の授業でしたが、指示に対する反応の速さ、正確な英作文、流れるような授業展開、これ

ぞ理想の授業と感銘を受けました。土浦一高に赴任

昭和44年本校に赴任しました。殆どの先生が恩師で緊張の連続でした。最初の仕事は会議の記録係でした。この年から後夜祭が始まりました。後夜祭を実施するかどうかの議題で、誰もが結論は分かっていた。予想される問題を検討する意味合いのものでした。そのころは、2学期制で一高祭は9月末でした。英語科職員室は旧本館から北側の、現在の事務室あたりに建つ木造2階建てでした。年長の赤鬼(羽方)先生が主任でした。学生時代の怖い印象と違い、穏やかな謹厳実直な方で年休を取らないのを自慢しておられました。職員室では世間話は一切なく、それぞれが空き時間を採点や教材研究に使っていました。語法の問題で論争することもあり、教科書の記述で出版社に質問状を出す方もおられました。

その頃は、安保闘争や組合活動が激しい時代でしたが、職務に徹し、大学入試に耐える基礎力向上に集中しました。長い冗談は避け、指名を多くし、緊張感の50分間を過ごし、チャイムが鳴るとすぐに授業を終わるよう努めました。ある実力テストで、米国小説家の随筆から作問したところ見事に訳出した生徒が何名かいたのので、授業のレベルを上げるように努めました。教科書に関連した語法や適切な入試問題を取り入れました。授業中、私語は全くなく、正に針一本落ちてでも聞こえるほど静かに、一語も聞き漏らすまいとしており、授業展開が容易でした。授業が終わると必ず質問があり、次の授業に駆け足になること

もありました。テスト前は、教壇には質問の人ばかりででき、その目は真剣そのものでした。特に副読本の質問では、納得したときの輝きの表情は素晴らしく、これで一段階学力がついたなと思ったものでした。

本校2年目、横田学年(高25回)に加えていただきました。先生には高校2年の時、担任していただきました。その後、大塚学年、戸祭学年と担任を連続3巡り、つまり9年間つづけ、生徒の皆さんと年次ごとの喜び、不安、焦り、苦しみと共にしました。卒業式の後、沈黙の教室に佇んだときの寂寞感は癒し難いものでした。蛇足になりますが、それから40年、今から4年前、上記学年の卒業40周年記念式典、同窓会があり、立派になられた高25回生と昔を懐かしく語り合いました。預かっていく一高祭時の級旗の下で写真を撮ることができました。

職員室にはいつの間にか若手が増え、学年主任を任せられました。担任の先生方は、それぞれが教科のベテランで安心して当初の計画通り学年行事を進められました。共同宿泊学習で友情を深め英気を養わせ、全国模試を目安に学力向上を目指しました。3年後、再び学年主任を命じられました。真剣な心構えで学年経営にあたりました。3年間の流れが分かっている担任の先生方は、きめ細かに指導に取り組んでくださいました。1年時には初の民宿での共宿を体験したりして学年行事を予定通り進め、まずまずの成果をあげ、無事任務を果たすことができました。

## 海外研修

最初の学年主任2学年時、レーガン大統領時代、海外研修を命じられました。7月から約3ヶ月の

研修で、ミシガン大学での講義・実技、ホームステイ、観光の内容でした。大学での講義では全国から集まった24名と一緒に。ホームステイはボストン北のコンネチカット州ハートフォード郊外のファーマーグランドで。州都ハートフォードは保険業で有名。ホームステイ先は、ご主人がエール大学の教授で、奥様が勤務する高校や近辺の高校を訪問しました。訪問先の学校では必ず生徒会長が校内案内役を務めてくれ礼儀正しいものでした。ワシントンでは付近を観光しましたが、かの有名なウォーターゲートで、手荷物を置き忘れ、タクシーで取りに戻り、図らずもイエロー・キャブ乗車を体験しました。ニューヨークでは世界貿易センターに行こうと地下鉄に乗ったとき、降り駅を覚えてくれた人が1つ前の駅でわざわざ近づいてきて教えてくれました。文部省の威光は素晴らしく、どこへ行っても歓迎され、地元新聞の一面記事に載りました。宿泊先は安全確保のためどこも一流に近いホテルでした。ファーマーグランドは名前からして英国移住者が多く、黒人は殆ど見かけなく、近辺の公立校はあえて黒人生徒を入学させ人種間の融和を図っていました。米国を垣間見ただけでなく、人情・道徳・価値観は日本と変わらないという感じがしました。

## 終わりに

定年退職後、県南・県西2つの県立高校で新採の先生と授業を見せ合い、指導法等について話し合いをしました。他校に勤め、改めて一高生の評判の高さを認識しました。今思うに、一高は生徒と同時に教師をも鍛える場でありました。

## 卒業生レポート

②

## 「看取りの医者として」

ホームオンクリニックつくば院長

平野 国美

(高35回)



はじめに

私は2002年、つくば市に10畳ほどのテナントを借り、訪問診療専門の医院を開設しました。当時、病院の中では社会的入院（必ずしも治療や退院を前提としない長期入院を続ける状態）が問題とされ、課題は、いかに入院させるかではなく、いかに、うまく、退院させるかにシフトしていった時代です。当時の私は自宅での療養をサポートする介護保険制度、訪問診療制度を理解していたわけではありません。病院で当直をしていた夜、同僚が言った一言、「フットワークの良い町医者が一人でもいれば家に居る患者さんが、ごまんというのだが……。」これが私の、その後を決める言葉となりました。筑波大学医学専門学群に入学、2回の留年を繰り返して、研修医としても評価されず、大学院において遺伝子（おぼろげ）の興味を持って、37歳にしてモラトリアムに陥った私は、いかに病院という職場から自分自身を退院させるかを考え始めました。平和な状態で外に

出たかったのですが、教授を筆頭に御指導を頂いた先輩方に話すのが全く理解を得られず、喧嘩別れの状態で職場を飛び出しました。そして、御紹介を受けた患者さん宅に聴診器と血圧計のみで訪問を開始しました。しかし、私が診察する患者さんは老衰、または悪性疾患（癌）により「避けられぬ死」を数日から数ヶ月で迎えてしまうのです。この15年間で私のクリニックで書かせて頂いた死亡診断書は1600件に到達しようとしています。

看取りの医者として生きる

しかし、今の境地に至るには紆余曲折がありました。当時の私は、日々、死亡診断書を書くだけの自分の姿に疑問を超えて嫌悪感さえ抱くようになりました。「医者とは？病気を治す、寿命を延ばすのが仕事では？俺は一体、何をしているんだ？」と自問自答の日々に陥りました。しかし、開業した、その年の暮れに、そんな私に転機が訪れました。そこで、ある患者さんとの出会いが今の私の全てとなっていました。それは、自分の仕事「患者さんの自宅での看取り」と悟った日でした。この件（くだり）は、拙著「看取りの医者」（小学館刊）に綴っており、まず、興味のある方は御一読いただきたいと思えます。肺疾患のため自宅で酸素吸入を行っていたら、ほぼ、ベッド上で暮らす男性の患者さんがいました。介護者は高齢の妻が一人。しかし、ある夜、この奥様が転倒して骨折したことに

より、患者さんは自宅で療養を続ける事が不可能となり、一時的に施設に移動をしました。元研究者で頭脳明晰な方でしたが、環境の変化から、せん妄状態となり、食事、飲水を受け付けなくなり、緊急入院となりました。しかし、せん妄は落ち着かず、自宅へ強制退院となりました。自宅に戻ると、体の状態は悪化しておりましたが、せん妄は解け、しつかりとした口調で、こう話されました。

「こんな病気を抱えながらも私は、この年まで十分に生きられました。死ぬことは、怖くないと言えは嘘になりますが、延命は望みません。もう、病院には戻りたくないです。できれば、この自分の部屋で好きな音楽を聴きながら妻と最期を迎えられればと思います。できれば、ブルースを聴きながらね。これが、私の本望なんです。この選択肢は私には残されていないのでしょうか？」

「医者として「死は敗北である」と信じてきた事が、この瞬間に変わりました。「全ての死が決して敗北ではない」。この患者さんの言葉で私自身が救われたのです。この世に、一度、生を享けた以上、避けられない死が、いずれ訪れる。その時を見守る医者も必要なのだろうと。そして、これから「看取りの医者」として自分が生き、そして、いずれ、自分も死を迎えるのだと悟った日でした。「死」は誰にも約束されたものなのです。その死をいかに、迎えるかが今の私のテーマです。

地域共同体と死生観

戦後、自宅での看取りは減少し、1977年に病院での死が在宅死を上回りました。現在では日本人の8割が病院死、2割弱が在宅死となっています。今後、国の目標は2025年には在宅死を4割に設定していますが、この数字は不可能でしょう。土浦、つくば地区も独居老人、老老介護の割合が増加しつつあり公

的なサービスだけでは、自宅での療養、そして看取りは不可能な事例が出ております。そして、自宅は最期の場所ではなく、その場所は病院であるという考えが根本に存在するように感じます。

そんな中で、今後、いかに「看取り」を行なっていくのか？医療だけでは解決できないものが、そこには存在します。「看取り」を考えると、私は必要なのとして「地域コミュニティ」と「死生観」を挙げます。まず、地域コミュニティの話ですが、この15年でも社会のシステムは大きく変容していくのを感じます。往診していて感じるものは、かつて、そこにあった商店街、村社会と呼ばれた共同体が失われた事です。患者さんの抱える問題は実は病以外のところに存在します。かつて、そこに自然と形成されていた地域共同体の存在を深く考えます。最近、地域包括ケアという言葉を耳にしますが、これこそ、昔あった地域コミュニティの形態を復活させることだと解釈しています。このコミュニティの中でクリニックといった医療機関も治療をする場所としてだけでなく、ある種の文化を発信するものとして存在する必要があるのではないかと思っております。クリニックというものが時代で役目を変えていく必要があるのではないかと。かつて、地域のコミュニティの中心にあった寺社や学校のような役割をクリニックの中に持たせる時代なのかと考えて、いくつかの試みを始めています。

次に「死生観」ですが、ここ40年の間に死を自宅から切り離れた事に、[死]を感じる場所と時間が失われたように思えます。医療費などの社会保障費の抑制の中で始まった訪問診療制度や介護保険制度ですが、人生の最後を救急車に乗り、延命を図られ点滴のラインに繋がれた状態で迎えるだけでなく、自宅の床の間で、これまでの

生き様を感じながら最期を迎えることも選択肢として可能となってきました。青森の山の中で、軽自動車に宿泊をしながら、寝たきりの妻と旅をする70代後半の男性と会ったこともあります。「老人ホームに閉じこもっている場合じゃないよ。」危険ではあるが旅の中で人生の最後を迎えたい。これも尊い考え方と思える私がいいます。これも、私の患者1600名の尊い最期に寄り添わせていただいた結果、手に入れた私の死生観だと思います。暮らしの中で、家族の友人の「死」と向き合うのも、これから高齢化する社会の中では必要だと思えます。

人生の最後は様々です。最後に私が経験した看取りを1つ御紹介します。70代の癌の末期の男性は天涯孤獨でした。この方は我々の母校、一高のヨット部の方でした。最期を支えたのは、ヨット部のOBの皆さんでした。そして、最後は、みなさんで船を出し、霞ヶ浦に遺灰を撒いて終わりにしたそうです。今、血縁に看取られる時代ではなく、人々の人生の最後に

動き出すことでもある。TVドラマ化！  
「看取りの医者」  
大竹しのぶ主演  
NHK BSプレミアム  
12月1日(金) 21:00



# 支部・OB会だより

## 真鍋支部

真鍋支部は、隆盛期と10年近く  
の休眠期の後、平成22年2月に49  
名の参加で新生真鍋支部総会を開  
催。しかしこの数年は30名強。内20  
名は後期高齢者、女性ゼロとい  
う状況であった。

そこで、母校を擁する地元支部  
として、もっと多くの同窓生が集  
い、活発な交流ができる様にした  
い小野治支部長(高9回)の熱い思  
いの下、再興を図る事になった。支  
部総会のコンセプトも、「地元と同  
窓生をつなぎ・広がり・楽しむ」  
場を提供させて頂く」として、60名  
の参加を目標に、幹事7名で2月  
準備活動を開始した。

今風に言うところ「同窓生ファース  
ト」。支部役員は裏方・おもてなし  
に徹し、総会は極力簡潔に、懇親会  
は「一人ぼっちを出さない。全員笑  
顔で、つながり・広がり・楽しむ」  
を合言葉に、テーブル配置は同期  
や知人別とした。若手同窓生の支  
援も兼ねて、ケーナ奏者・渡辺大  
輔さん(高51回)とジャズピアノニ  
ス・根本マリサさん(高58回)の、  
初のコラボ演奏会を企画した。

総会は6月18日正午よりホテル  
マロウド筑波で開催。本部から大  
曾根宏亮副会長(高4回)、母校から  
新任の杉田幸雄校長(高29回)、  
明賀靖子副校長、東京支部(東進  
会)から大野金一名誉会長(高8  
回)のご臨席を頂き、当初目標を大  
幅に超えた97名が参加。平成卒の  
若い世代や女性も各10名以上と老

若男女が勢揃い。

飯島功光幹事(高32回)の司会で  
開始。川島一男副支部長(高13回)  
の開会の辞、物故者への黙祷後、小  
野支部長の挨拶。母校を擁する真  
鍋支部のあり方、新しい懇親会運  
営等について熱心に説明なさつ  
た。続いて杉田校長から母校の近  
況、大曾根副会長から120周年  
記念事業寄付へのお礼と旧本館の  
修復状況等のご説明。その後、議事  
を審議。塚本真芳代表幹事(高14  
回)より事業及び会計報告、本橋重  
兵衛監査役(高12回)から監査報告  
が、小野議長から役員役割変更。塚  
本代表幹事が副会長、高山幹事が  
代表幹事)がありご承認頂いた。最  
後に、役員全員が壇上で自己紹介  
をして総会は終了。

休憩後、高山代表幹事の司会進  
行で懇親会を開始。小松崎忠雄副  
支部長(高14回)開会の辞、清水浩  
副支部長(高13回)の乾杯で歓談開  
始。東進会を育て上げた大野名誉  
会長から支部発展経過や真鍋支部  
へのエールを、明賀靖子副校長か  
らは新任のご挨拶を頂いた。今回  
の特別企画、参加者全員の一言自  
己紹介を、10のテーブル全てで、1  
時間実施。笑いに囲まれながらお  
互いを知り合い、会場は急速に和  
やかな雰囲気になった。

懇談の輪が広がる中、雰囲気を変  
え、渡辺・根本コンサートを開  
始。お口は飲み食いにお使い頂き、  
お耳と頭は演奏に集中。偶然同ホ  
テルで旧職員会を開催中の、恩師  
の方々11名も合流。110名近い

聴衆が、静かに40分間の見事な演  
奏と軽妙なトークに聴き入り、ア  
ンコールもでて大好評であった。

2時間超の懇親会もあっという  
間に過ぎ、校歌生演奏をバックに、  
応援指導部OBの吉田博史さん  
(高28回)のリードで校歌を高らかに  
斉唱。塚本副支部長の万歳三唱  
で中締め。出口では、支部長以下役  
員全員が並び、ご参加のお礼と、柴  
沼和廣さん(高21回)ご提供の柴沼  
醤油・紫峰をお土産としてお渡し  
し、来年の再会を約した。

県南の他支部参加者から「大変  
楽しく、参考になった。我々の支部  
も負けない様に工夫してやってみ  
るよ」との感想を頂いた。各支部が  
相互に交歓し合い、刺激合って  
特長を生かした支部活動が活発に  
なってくればと願う。

来年度の総会は、5月27日(日)。  
多くの県南地域の同窓生のご参加  
をお待ちする次第である。

(代表幹事 高山了)



## ゴルフコンペ100回達成!!

高15回・同窓会代表幹事

島田 卓光

昭和38年3月卒(高15回)のゴ  
ルフ愛好者で集う、イチゴー会(1  
と5でネーミング)の第1回ゴルフ  
コンペは、平成11年11月9日六  
戸ヒルズGCでスタート(以前は  
年2回、5年位その後休会、以  
後17年間70才を過ぎた現在まで継  
続、平成28年12月14日ウインザ  
ーGCで記念すべき100回目を迎  
えました。

当初は年2回程度で約6年間推  
移、以後平成17年・24年までは年  
4・6回、25年以降は寒い2月、  
暑い8月を除き年10回、その間平  
成18年からは酒を酌み交わす忘年  
会を兼ねて12月に1泊2日プレー  
でカラオケ、麻雀を楽しみながら  
交流を深め、21年からは7月に暑  
気払いも加わりました。

幹事は当初、持ち回りでしたが、  
慣れない幹事の運営には連絡、印  
刷等苦勞も多く固定幹事の要望が  
あり、16回より現在まで柴田寶君  
(柔道部)が事務局を引き受けて  
くれ、企画、運営、会計等全般に  
携わってくれております。お陰様  
で大会記録等しつかりと残り、そ  
れをもとに立派な100回達成記  
念資料を作成してくれました。

その資料の一部を紹介しま  
す。歩みから始まり、会員の投稿  
文、優勝者、準優勝者、参加人数  
等の全大会記録、因みに、個人優  
勝回数1位、柴田寶君11回、同2  
位、市野澤忠夫君と橋本透君(硬  
式野球部)の7回、年間賞金王(平  
成19年から)1位、柴田寶君4回、  
同2位、小林雅美君(硬式野球部)

2回、ベストスコア、薬科登君(硬  
式野球部)73打(第11回)、最多  
出場90回、窪谷公男君(応援指導  
部)、豊島敬一君(バレー部)、連  
続出場57回継続中の海老原啓一郎  
君(文芸部)等、又、平成17年か  
ら始まった一高全体のOBゴルフ  
大会(年1回、60才以上、柔道部  
OB主催)では今年まで12回の内、  
学年対抗団体戦で連続優勝2回を  
含む優勝5回の記事、更には、会  
員を結ぶイチゴー通信(各回の成  
績結果、会計報告、優勝者コメン  
ト、宿泊懇親会模様等)も掲載さ  
れ、35頁の力作です。

会則を定め、会員はピークで57  
名現在34名登録、年会費1000  
円(通信費)、各回参加費200  
0円で運営、賞品は賞金制とし、  
イチゴダービー(馬券)、オリ  
ンピックゲーム(グリーン上の  
パッド勝負、ダイヤモンド、金、銀、  
銅、鉄)等を楽しんでいます。

年々、参加者が減少し、70歳を  
過ぎて五体満足で参加する方は稀  
で、大半  
が何かし  
らの患  
いを持って  
いる現在、  
我々同期  
のゴルフ  
大好き人  
間の集ま  
りは、希  
望を持っ  
て続けて  
行こうと  
思ってい  
ます。



# 母校だより

## 第70回一高祭

3年G組 岡野崇史

今年度も、土浦一高の伝統と歴史ある文化祭である「一高祭」を6月3日(土)、6月4日(日)の2日間にわたって盛大に開催できたこと、実行委員長として大変うれしく思います。この場をお借りして、第70回一高祭の開催にご協力いただいた全ての方に感謝申し上げます。

今年度で、一高祭は70回を数え、土浦一高は創立120周年を迎えました。節目の年の一高祭の準備をするにあたって、私たち実行委員会はこれまでの69回分の伝統を生かしつつ、これからの一高祭につながるものになりたいと考えました。この一高祭は、9つの実行委員会を中心に1年間かけて準備を進めてきました。その中で、今までの風習にとられすぎることなく、より良いものを目指し試行錯誤を重ね、「第70回」の名にふさわしい一高祭を作り上げることができたと思っています。

そんな第70回一高祭を象徴するテーマが「宇宙」です。宇宙はその長い歴史にもかかわらず未知の部分が多く持ち、人々を惹きつけてやみません。一高祭も70年の長い歴史を経てもなお、宇宙のようにまだ誰も知らない良さがあると

考え、その良さを発見する機会になればと思い、このテーマに決定しました。そして、宇宙と同じようにこれからも長く、様々な方にとって魅力的な一高祭であって欲しいと思っています。

さて、第70回の一高祭では2日間で合計5544人の方にお越しいただき、大盛況のうちに幕を閉じました。多くの方に一高祭を楽しんでいただけたとすれば幸いです。

そして現在は、すでに第71回一高祭に向けて後輩たちは動き始めています。きつと、これからも一高祭は進化を続けて行くことと思います。来年も一高祭に足を運んでいただけたら、と思います。



## SGH・海外フィールドワーク

SGH推進室長 豊島 卓

平成26年度に、文部科学省からスーパードグローバルハイスクール(SGH)の指定を受け4年目を迎えた。今年は、2年生9名がマレーシア・シンガポール、12名がオーストラリア・タスマニア島とシドニー、8名がアメリカ・ロサンゼルスでフィールドワークを実施した。

今年で3年目となるマレーシア日本国際工科院では、杉浦則夫教授(高20回)のご指導のもと、教員による講義、現地院生とのワークシヨップ、院生アテンドによる市内フィールドワーク、調査結果プレゼン、文化交流などのプログラムを実施した。また、アエヒタム村ではホームステイを経験したシンガポールでは、MOEランゲージセンターを訪問し、日本語を第3外国語として学んでいる同世代の生徒と意見交換を行った。

タスマニアでは、タスマニア大学を訪問し、ジェイミー教授のご指導のもと、講義や研究室訪問を行った。また、海洋南極研究所の低温実験室では、研究員とのディスカッションを行った。ボノロングワイルド・ライフサンクチュアリでの講義とフィールドワークでは、固有種を守る活動の大切さやそのためにかかる費用の問題など、現地でしかわからない多くの話と意見交換ができた。シドニーでは、聖レオカトリック校を訪問し、1対1で担当生徒が付き授業に参加した。ホームステイも体験

し、積極的なコミュニケーションを楽しんだ。

ロサンゼルスでは、アナハイム市庁舎を訪問し、同市名誉市長でもある、本校元同窓会長幡谷祐一氏(中40回)の親書を機会で紹介した。UCアーバイン校の訪問では、自分たちの研究テーマを学生に紹介し助言をいただいた。学内ではフィールドワークも行い、120人にインタビュをした生徒もいて大変有意義であった。ホリバ・インスツルメンツ社の訪問では、ベンチャー企業としての役割と意義をご講義いただき、自分たちの研究テーマに関する助言をいただいた。ロナルドレーガンライブラリー、Getty Center、ハードロックカフェにも立ち寄り、アメリカの文化にも触れることができた。この経験を踏まえ、各グループでの研究をさらに深化したものにしたい。

## 職員だより

### 保健体育科より

主任 諏訪 靖典

我々保健体育科には、6名おります。中根宣子(本校9年目・生徒指導副部長・教育相談部)、諏訪靖典(3年目・3年担任・生徒指導部)、川松隆宏(2年目・生徒指導副部長・保健部)、小倉輝之(1年目・教務部・保健部)、佐藤由法(1年目・1年担任・教務部)、定時に谷口実(定時制1年目・1年担任・保健給食部長・生徒指導部)の6名です。

さて、体育科職員室(体育館2階)の雰囲気をご紹介いたします。まず、常に明るく皆健康で和気藹藹としております。毎朝出勤すれば、互いに挨拶を交わし、天気や時事問題などを語ります。授業へは、チャイムの数分前に行き、生徒の表情をよく観察し、授業から戻れば、その時々の生徒の様子を共有します。空き時間の教員は教材研究に勤しみます。最近では指導と評価の在り方についてよく議論します。

本校における体育授業は、自主的な活動を中心とし、他者との協調性を高めることに重点を置いています。また、生涯スポーツにつながるように多くの種目に触れさせ、個人スキルを習得し、仲間と工夫してゲームを展開できるように指導しております。したがって球技種目が中心となっておりますが、水泳と持久走を必修種目として取り入れ、自己の健康や体力の保持増進に努めています。伝統の一高体操は年度当初に各学年で実施し、テストを行って定着を図っています。

保健の授業においては、課題学習に重点を置き、1学年は個人、2学年はグループでの研究・発表を行います。健康を様々な側面からとらえ、生涯の健康に役立つ情報を収集する能力を養っています。さらには、自分の知識を増やすことで、命の大切さや思いやりの心を育てようと、医学、解剖学、運動生理学的な見地からの内容も授業に活用しております。運動部活動においては近年、陸

上部や水泳部、ヨット部が関東大会に出場、剣道部やサッカー部、バレーボール部が県大会上位に進出するなど、文武両道を掲げる本校において優秀な成績を収めております。限られた時間の中で練習内容を工夫し、集中して質の高い練習を継続することによって、さらなる活躍を目指しております。

今後は授業のみならず体育的行事や運動部活動など、積極的に生徒と汗を流し、学校をリードできる保健体育科でありたいと考えております。今後とも宜しくお願い致します。

## 部活動報告

### ヨット部

3年C組 山根初穂

土浦一高ヨット部は、今年で創立61年を迎え、過去に全国大会で優勝した経験もある、伝統のある部活です。現在は2年生6人、1年生2人の計8人で活動しています。

あまり皆さんに馴染みがないであろうセーリングについて、少しだけ紹介します。ヨットは、風を帆を受けてその揚力で進みます。大会はレース形式で行われ、水上に打たれたマーク(大きな浮き)を定められた順番に回って、その着順によって順位が付きます。出来るだけ早くゴールするためには、風向き、風速、波などに合わせて帆走しなければいけません。その為、体力はもちろん、戦略を



立て、刻一刻と変化する状況に素早く対応する力が求められます。常に自然を相手にしているため、時には非常に厳しい環境下に置かれますが、水面に沈む太陽を背に走るヨットなど、綺麗な景色も見ることが出来ます。

我が部の活動場所は霞ヶ浦で、部室も霞ヶ浦湖畔にあります。部員同士の仲が良いため、部室では笑い声がいつも絶えません。合宿はありませんが、大会等で遠征する時は遠方の海か湖まで泊りがけで行きます。霞ヶ浦では土浦一高の他にも霞ヶ浦高等学校、土浦日本大学高等学校、土浦工業高等学校のヨット部が活動していて、他校生と関わる機会も多いです。

日々の練習内容は、出艇する日は本番を想定したレース練習が主で、沖に出て長距離を帆走することもあります。出艇しない日も、

船の整備、陸での練習などを行い、各人が目標を持って課題を克服すべく練習に励んでいます。

そんな練習の甲斐あって今年も例年通り関東大会に出場し、女子は3位入賞を果たすことが出来ました。惜しくも全国大会出場を逃す結果となり私は引退しました。

が、来年の夏の大会では、今年の経験を生かして全国大会出場の目標を達成してくれることを期待しています。

後輩達はさらなる高みを目指し、スポーツマンシップに則って日々精進することと思います。今後ともご指導、ご声援の程宜しくお願い致します。

### 最近の定時制の様子

教頭 川上 弘

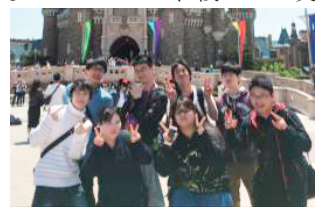
「基礎学力の定着と分ける授業の実践」と「卒業」を目標として、全教職員が一丸となり、一人一人の能力を把握し、個に応じた授業を行っています。今年も昨年に引き続き、夏季休業中に三修三卒業希望者、就職希望者対象の課外を開講し、多くの生徒が参加しました。

定時制では、4月から数多くの学校行事や生徒会活動を行い、その中で教師と生徒または生徒同士のコミュニケーションを通して、より良い人間関係の構築に取り組んでいます。また、毎週月、水、金の放課後には、多くの生徒たちが文化部や運動部などで活躍する姿を見ることが出来ます。そのような学校生活の端を紹介します。

### 一 校外学習

5月のゴールデンウィーク中、4年ぶりに東京デイズニールンドへの遠足を実施しました。

仕事やアルバイトで、普段なかなか行く機会の少ないデイズニールへの遠足には、多くの生徒たちが参加しました。



### 二 第1回校内球技大会

今年度は、球技大会を2回実施します。昨年度は、星光祭(文化祭)が予定されていたため、後期の球技会は計画されていませんでした。

今年の第1回球技大会は、昨年度と種目は同様のものでしたが、生徒会が中心となり、ルールや進行方法などの見直しを図り、スムーズな運営を試みました。



### 三 県定通体育大会及び全国定通体育大会での主な結果

#### 【県大会】

6月4日(日)に行われた県定通体育大会には、7種目28人が出場し、4種目6人の全国大会出場を勝ち取ることができました。

#### 卓球部

男子個人準優勝  
男子団体準優勝

### 柔道部

男子個人3位

### 剣道部

男子個人5位

### ソフトテニス部

男子ダブルス4位

### バスケットボール部

男子3位

### バドミントン部

男子ダブルス準優勝  
男子シングルス3位



### 【全国大会】



ソフトテニス部は初めての全国大会出場を果たし、個人戦、団体戦メンバーとして出場することができました。個人戦では惜しくも2回戦進出を逃しましたが、団体では、茨城県チームが全国準優勝を勝ち取ることができました。その他、卓球部、柔道部も2回戦進出、剣道部は残念ながら予選リーグ敗退という結果でしたが、どの部の選手も精一杯力を出し切った戦うことのできた素晴らしい大会でした。

## 進路状況報告

東大・京大  
東工大・一橋大 33名国立大医学部医学科17名  
東大20名で全国公立6位  
筑波大43名・東北大25名

進路指導部長 横倉 敏治

志願概況は、国立大で前年並み、私立大で増加と対照的な結果となった。系統別の人気では、ここ2年ほど続いた鮮明な文高理低に変化の兆しがみられ、今春は総合科学系や工学系に人気が集まった。

国立大では、教育学部のゼロ免課程の廃止、学部新設などの学部再編の動きが活発だった。それに伴い、入学定員の文縮理拡の動きが見られた。入試改革の方向性を意識してか、難関大や医学部医学科でも後期廃止が進んでいる。昨年度の東京大に続き、大阪大が後期を完全に廃止した。AO入試を実施する大学が65%にまで達し、募集人員は前年比123%と大幅に増加している。国立大学協会は「アクションプラン」で、平成33年度までに入学定員の30%を目標に、推薦入試、AO入試、国際バカロレア入試などを拡大すること掲げており、この傾向は強まる事が予想される。難関国立大は堅調な人気を示している。センター試験では文系の平均点が7点アップしたことが、文系受験生の

強気の出願につながった。

私立大では、インターネット出願や併願時の受験料割引制度の拡大が、志願者数増加の大きな要因となった。入学定員管理の厳格化に伴い、合格者を絞り込む動きが見られ、競争が激しくなった。さて、昨年度の本校の主な大学の入試結果であるが、

東京大20名(新卒11名)  
京都大6名(新卒5名)  
東工大5名(新卒3名)  
一橋大2名  
東北大25名(新卒18名)  
筑波大43名(新卒27名)  
国立大医学部医学科17名(新卒6名)となった。

東京大には、新卒生が11名合格した。内訳は、文一3名、文二1名、文三2名、理一3名、理二2名である。既卒生が9名合格し、合わせると20名となり、公立高校では全国6位の合格者数であった。東京大、京都大、東工大、一橋大には、合わせると33名が合格した。筑波大には、43名が合格し、そのうち医学群医学類には6名(新卒3名)が合格した。東北大には、25名が合格した。

本校生の受験する大学は難関大と言われる大学が多くを占め、目標を高く設定し、最後まで諦めない姿勢が窺える。しかしながら、本校を取りまく環境変化が急激に進んでおり、今後より一層の学習指導・進路指導の充実を図ってきたい。

## 平成29年度入試合格状況

## 国公立大学

## 私立大学

\*新卒は内数です

| 大学      | 合格者 | 新卒 |
|---------|-----|----|
| 旭川医科大   | 1   |    |
| 北海道大    | 16  | 9  |
| 北教大札幌校  | 1   | 1  |
| 東北大     | 25  | 18 |
| 秋田大     | 2   |    |
| 茨城大     | 19  | 12 |
| 筑波大     | 43  | 27 |
| 群馬大     | 1   |    |
| 埼玉大     | 2   | 2  |
| 千葉大     | 12  | 5  |
| お茶の水女子大 | 2   | 1  |
| 電気通信大   | 2   | 1  |
| 東京大     | 20  | 11 |
| 東京医科歯科大 | 1   | 1  |
| 東京外語大   | 3   | 3  |
| 東京海洋大   | 1   | 1  |
| 東京芸術大   | 1   | 1  |
| 東京工業大   | 5   | 3  |
| 東京農工大   | 1   | 1  |
| 一橋大     | 2   |    |
| 横浜国立大   | 7   | 5  |

| 大学       | 合格者 | 新卒  |
|----------|-----|-----|
| 新潟大      | 1   |     |
| 山梨大      | 1   |     |
| 信州大      | 6   | 4   |
| 名古屋大     | 3   | 1   |
| 京都大      | 6   | 5   |
| 大阪大      | 4   | 3   |
| 奈良女子大    | 1   |     |
| 和歌山大     | 1   |     |
| 九州大      | 3   | 1   |
| 鹿児島大     | 2   | 1   |
| 札幌医科大    | 1   |     |
| 福島県立医科大  | 1   |     |
| 茨城県立医療大  | 3   | 2   |
| 高崎経済大    | 1   |     |
| 新潟県立大    | 1   |     |
| 名古屋市立大   | 1   |     |
| 岐阜薬科大    | 1   |     |
| 和歌山県立医科大 | 1   |     |
| 岡山県立大    | 1   | 1   |
| 国公立大計    | 206 | 120 |
| (うち医学科)  | 17  | 6   |

| 大学    | 合格者 | 新卒  |
|-------|-----|-----|
| 青山学院大 | 18  | 11  |
| 学習院大  | 14  | 5   |
| 慶應義塾大 | 32  | 14  |
| 芝浦工業大 | 35  | 8   |
| 上智大   | 8   | 3   |
| 中央大   | 44  | 21  |
| 津田塾大  | 6   | 5   |
| 東京女子大 | 12  | 8   |
| 東京理科大 | 115 | 45  |
| 日本大   | 30  | 10  |
| 日本女子大 | 17  | 6   |
| 法政大   | 34  | 16  |
| 明治大   | 85  | 43  |
| 立教大   | 10  | 7   |
| 早稲田大  | 57  | 21  |
| 立命館大  | 10  |     |
| その他   | 150 | 85  |
| 私立大計  | 677 | 308 |
| 合格者総数 | 883 | 428 |

